

国民だました政府・関電

大飯3、4号機は停止せよ

■再稼働は必要なかった

今夏の電力需要のピークは2682万キロワット。関電予測(2987万キロワット)の90%以下でした。他方、原発以外による供給実績*は2946万キロワットにも。関電の予測が「需要は過大、供給は過小」であったこと、大飯の再稼働がなくても余裕があることが証明されました。

※火力、水力、揚水、太陽光・地熱の発電と他社からの融通電力の一日の最大実績の合計

■原発なしでも大丈夫

今夏、関電の大飯以外は原発を一基も動かしていません。全国の電力会社のピーク時供給力(8月21日)と管内の最大需要を比較すると、全ての電力会社で供給力が上回っています(表)。原発なしでも大丈夫です。

合計	最大需要	ピーク時供給力
1億2970万kW	1億4040万kW	
北海道	453	506
東北	1346	1461
東京	5038	5496
中部	2478	2604
北陸	523	572
中国	1085	1167
四国	526	571
九州	1521	1663

7月2日から8月20日まで
ピーク時供給力は8月21日現在。電事連のHPから



関電本店ビル(大阪市北区)

関電予測と実績

□予測 関電の電力需給予測(5月19日発表)は次のようなものでした。“今夏の最大需要想定は2987万キロワット、供給力は2542万キロワットで445万キロワット(15%)も不足。原発再稼働は不可欠だ”

□実績 ところが関電の発表資料に基づいて今夏の実績を見る

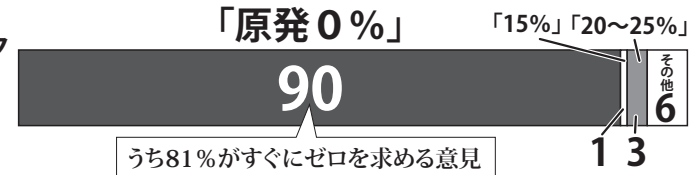
と…。最大の需要は8月3日の2682万キロワット、これに対して同日の供給は2999万キロワットで317万キロワットの余裕。同日の原発による電力供給は236万キロワットで、原発を除いてもなお81万キロワットの余裕があったこととなります。

原発ゼロ一刻も早く

日本共産党

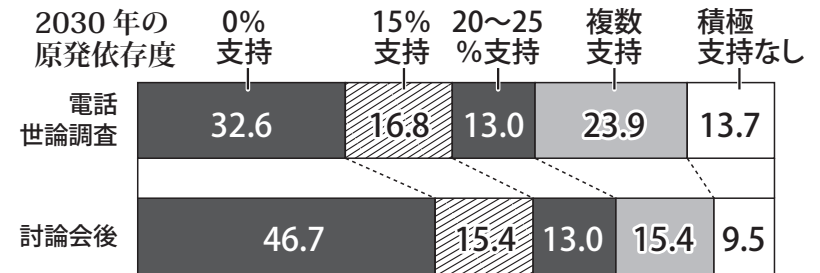
政府 エネルギー政策の意見公募 9割が「ゼロ」支持

パブリック
コメント
(意見公募)
7月～8月



政府のエネルギー政策に関する国民の意見公募(パブリックコメント)では、3案のうち9割が原発ゼロ支持でした(「すぐゼロ」81%、「段階的にゼロ」約9%)。「ゼロ」は国民的意見です。

討論型世論調査 「ゼロ」が32%から46%に



※参加者285人の回答を基に実行委員会が分類した

新たなエネルギー政策策定に向けた討論型世論調査の結果、「原発ゼロ」支持は最初の電話調査の段階では32.6%だったのが、討論会前は41.1%、討論会後は46.7%と増加。「ゼロ」への支持は3回の調査ですべて最多でした。

財界は世論に敵意

政府のエネルギー政策の検討で原発ゼロが国民的世論になるなか、財界は国民を敵視する立場がむき出し。「原子力ムラ」との矛盾が浮き彫りです。

長谷川閑史経済同友会代表幹事「きわめて残念」

岡村正日本商工会議所会頭「原発ゼロでどういう事態になるか正しく理解されていない」